

# 実績報告書

## 1 事業名

冒険遊び場（プレーパーク）を含む外遊びの普及・促進

## 2 実施期間

平成31年4月1日～令和2年3月31日

## 3 事業内容

### ① 事業の目的・概要

子ども達に冒険遊び場（プレーパーク）などの外遊びや野外活動をとおり、創造性、社会性、規範意識及び協調性など多くのことを学ぶ機会を提供する。

また、平成30年7月豪雨災害により被災した倉敷市真備町の子どもの「心のケア」に視点をおきつつ、野外で安心して自由に遊べる時間と空間を提供する。

### ② 事業の流れ・進捗状況等

#### <実施したこと>

#### 【川・海・山での外遊び体験事業（笠岡地区）】

- ・吉田川流域探検（令和元年5月26日開催）  
参加者：小学3年～6年：23人、スタッフ等：18人  
内容：吉田川流域に生息する生物の探索及び学習
- ・白石ヨット操縦体験（令和元年6月16日）  
参加者：中学生：7人、指導員等：6人  
内容：ヨット操縦体験、ロープワーク学習
- ・無人島自然探索（令和元年8月25日）  
参加者：小学3年～6年：22人 スタッフ等：21人  
内容：梶子島での清掃活動、海辺の生き物の探索、島内の自然探索
- ・岩原山木こり体験（令和元年11月24日）  
参加者：小学3年～6年：10人、スタッフ等：5人  
内容：ノコギリで伐採体験、チェーンソー伐採見学、山中散策、自然観察
- ・外遊び体験（毎月第3日曜日）  
参加者：延べ 約140人  
内容：自然素材を利用した自発的な遊び

#### 【プレーカーによる出張プレーパーク事業（真備地区）】

- ・まびにプレーカーがはしるよ～（毎月第2土曜日）  
参加者：延べ 約420人  
内容：平成30年7月豪雨により被災した子ども達等へ遊び場を提供するため、遊び道具の詰まったプレーカーを利用した出張プレーパーク

## 【冒険遊び場（プレーパーク）普及促進事業】

冒険遊び場（プレーパーク）を普及するための講演会を開催

【早島会場】 参加者：67人

日時：令和2年1月11日(土)10時～12時

場所：早島町中央公民館

演題：子どものやる気は遊びで育つ

【倉敷会場】 参加者：95人

日時：令和2年1月12日(日)10時～12時

場所：ライフパーク倉敷

演題：遊びは子どものためならず

～地域で紡ぐ子どものいる暮らし～

### ③ 成果・効果

- ・外遊び体験事業では、子ども達が日頃体験出来ないことを体験することにより困難を克服する達成感を得ることができるとともに、創造性や社会性、協調性などを学ぶことができた。また、自然に親しみ、自然環境を守ることの大切さも学ぶことができた。
- ・豪雨災害により、遊び場が減っている真備町内で、プレーカーを活用することにより、被災によるストレスを抱えた子ども達が安心して思いっきり遊べる場を提供するとともに、保護者同士の交流の場としての役割を担えた。  
また、地域で被災者支援を行っている「川辺復興プロジェクトあるく」や地域の方とつながることができ、事業を地域の方に引継ぎ、今後も継続できる可能性ができた。
- ・普及講演会をとおり、参加者に外遊びについてより興味を持ってもらい、その意義と重要性、子どもに与える影響を理解してもらうとともに、参加者自身の子育てのふりかえりを促すことができた。
- ・各事業の実施にあたっては、地域の団体（女性会等）と連携や、若者がスタッフとして参加するなど、今後の担い手の育成にもつながった。

### ④ 今後の課題・展開等

- ・笠岡地区については、今後も地域の方の協力を得ながら、子ども達が自由に遊べる環境を整備するとともに、本事業で得た「つながり」を生かし、後継者を育成したい。
- ・真備地区については、事業の意義に賛同してくれた地域の方が事業を引き継ぎ、継続して実施できるようサポートしていきたい。ただし、真備地区は復興の途中であるため、状況が変化しやすく不透明な点が多いという課題もある。

### ⑤ 県民局と協働した効果及び課題

- ・笠岡地区の事業の広報について、備中県民局管内全域へのチラシの配布、県フェイスブック、ラジオ等への出演などをとおして、広く市外からも参加者を集めることができた。
- ・真備地区の事業について、県民局との協働事業ということで、対象地域へのチラシの配布、広報等がスムーズにできた。

#### 4 実施状況

##### 吉田川流域探険



##### ヨット操縦体験



##### 無人島体験



##### 木こり体験



外遊び体験



出張プレイパーク

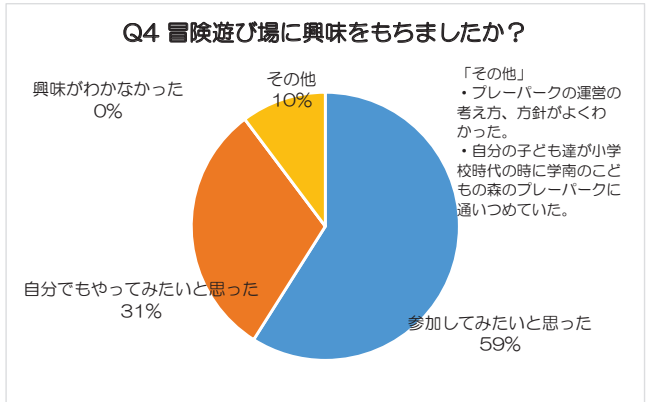
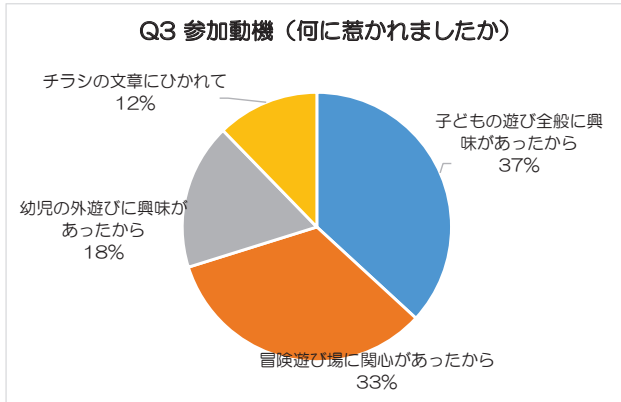
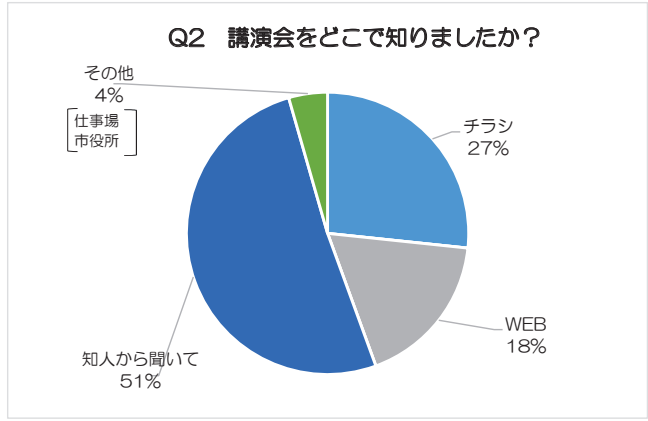
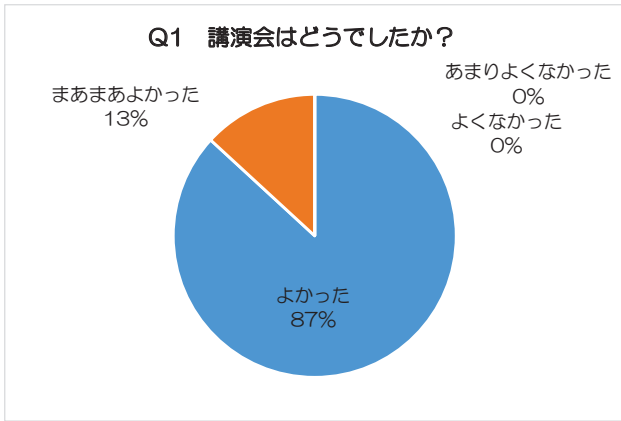


冒険遊び場普及講演会



冒険遊び場（プレーパーク）普及促進講演会 アンケート結果（回答数38）

早島会場（R2.1.11）「子どものやる気は遊びで育つ」



**Q5 印象に残ったこと、もっと知りたいと思ったことがありましたら教えてください。**

- 「子どもにとって遊びは呼吸です。無いと死にます。」←ハッとしました。私の都合で遊びの時間、場所を設けたり、子どもに遊びにいつも意味を見出そうとしたり…反省することがたくさんありました。
- 子どもたちの遊び場が減っている実感があったので、地域の理解が必要だと思いました。
- ある程度子どもたちにまかせて遊具を作ったりする事は私達の小さかった頃はあたり前だったが、今の子どもたちは家の中で完結できてしまうのは子どもの想像力の低下につながっているのかなあと考えました。
- 人件費や予算などどうされているのか…。補助金など？
- 自由に自分の責任でとは言うが大変神経を使われて運営されていることが印象に残りました。
- 子どもの環境は大人が変えていく！
- 子どもが自ら”やりたい”と思う環境作りをしていきたいと思いました。そのための工夫とかしかけをもっとお聞きしたかったです。
- ☆私も素材の1つです!! ☆ほぼボランティアでやっている活動の中で、発起人と立ち上げにかかわったスタッフ（見守り）の意識をつけていくのが難しい。→後から入ってきた当事者親の意識が変わったのか、今の時代の風潮なのか。
- とても勉強になりました。自由の中でも、安全への配慮…大切なことですね。
- 安全面に気を付け、信頼関係の大切さ、本当に大切な事だと感じました。ありがとうございました。
- 「今の子ども達は外で遊びたいと思っていない」と、言われていたのが印象的でした。本当にその通り。ゲームやユーチューブは本当に楽しくて、大人の力を問われているとひしひしと感じました。
- なくなる為の活動、大人は遊びの素材、遊気、普段の生活にかしたいと思います。
- 何も無い状態で遊ぶのが難しい場合、大人がきっかけを作るのも大切である。
- 子どもの育ちの環境がどうやったら良くなっていくのか。
- やる気が生きる力になる。大人のルールで子どもをせよめる
- ”プレーパークがなくなるようになることがプレーパークの目指すところ” 社会全体がプレーパークになるためには、大人の意識改革が必要なることを痛感しました。
- ケガ、事故どこまで気をつかえば良いのか、どこで止めるのか、本当に止めないのか
- ”親がしてやれることは子供に「生きぬく力」を育ててやることだけ”という言葉が本当に心にひびきました。
- 30年やっても、何も変わらない。むしろ悪くなっている。
- 外で遊んでも楽しくないから外で遊ぶなくなった
- 今あるものをこわして新たに別のものを作ることも認める、自由な遊び場であることに感動しました。
- プレーパークでは子供同士いじめはない（うちの子は公園遊びに行く運動が苦手なので元気な子についていけない、よくのけものにされているので）
- 地域との連携、行政をまきこむ方法
- 行政との交渉。上の人に交渉は参考になった。
- 9:00～24:00まで。自分が止めたことはない。

- ・ 冒険遊び場の限界についてのお話が興味深かったです。
- ・ プレーパークは知っていても参加したことがありません。考え方、どんな所なのか、など分かってよかったです。
- ・ 管理のため、クレーム対策のために子どもの自由を行政や地域が制限している今の風潮は良くないと思います。子どもの成長を行政もしっかり考えてもらいたいです。
- ・ 地域でプレーパークをどう広げていくか。学童を豊かにするには…

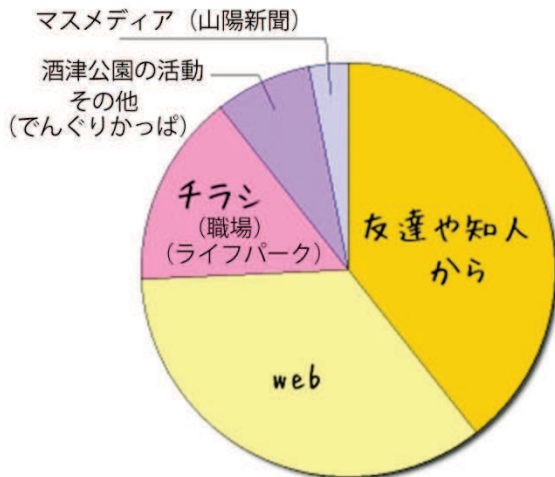
### Q6 自分でやってみたいと思ったことがありましたら教えてください。

- ・ プレーパークだとOK、家庭内ではダメだしていることが多々あると気づいたので、まずは命の危険のない事は大らかになろうと思えました。
- ・ 早島町のプレイパーク、手伝いたいと思いました。
- ・ 出来る形で応援したいと思います。
- ・ 竹や木材で遊具を手作り
- ・ ありがとうございます。子ども達が幸せな育ちをできるよう、私に出来ることを少しずつ継続して活動を続けていきたいと思っています。
- ・ 子育て支援拠点の狭い裏庭で、ミニプレーパークのように展開してみたいと強く感じました。できることからやってみようと思います。まずは以前受講できなかったので、プレーリーダー養成講座などあれば今年は受講したいです。
- ・ もっと子どもと話をしようと思いました。
- ・ 正しいと思うことを発信していく。
- ・ 自由な遊び場いいなと思いました。
- ・ 少しでもプレーパークの普及に尽力できたらと思っています。
- ・ これからの地域の公園作りにいかしたい。子供と一緒に公園作りをしたい。
- ・ ①のチャリや足で行けるキョリにある事を条件の1つにあるので、どこの市町村でもかなり沢山必要なと感じました。
- ・ プレーパークに行ってみよう
- ・ つい「片付けが大変」とかお友達と仲良く（もめないでほしい）してほしいと先まわりして制約を増やしてしまっていた…と反省しました。子どもがのびのび学べるようにがんばりたいです。今日はありがとうございました！
- ・ 庭先プレーパーク、子育てママの意識改革
- ・ 公園をあそび場（プレーパーク）にしたくてその参考になるのではと思い参加しました。
- ・ 子どもの集いのひろばで仕事しています。その中で活かせる方法でやってみたいと思いました。
- ・ 早島町のみなさん、行政の方が子どもの遊び場、環境が大切だと思い行動して下さる方がふえるように願っています。
- ・ もっと子どもの遊び、自由がある町になってほしいと思いました。町の方にも関心を持ってもらえるように、お母さんたちでも頑張りたいです。今の早島のしてくれているプレーパークも、もっとダイナミックになってほしいです。（禁止が多すぎる…）

# 冒険遊び場（プレーパーク）普及促進講演会 アンケート結果

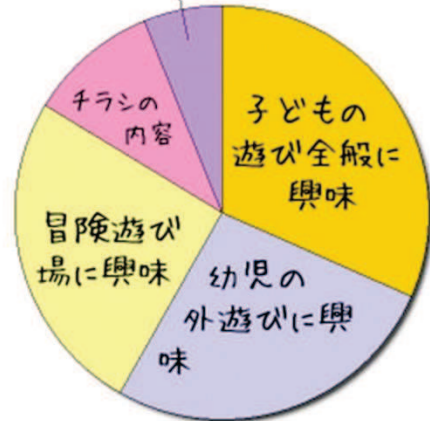
倉敷会場(R2.1.12)「遊びは子どものためならず～地域で紡ぐ子どものいる暮らし～」

## Q1 この講演はどこで知りましたか？



## Q2 参加の動機は？

・仕事や自身が携わるプレーパーク活動の参考にしたいくて  
 ・園長先生（職場？）にすすめられて  
 その他



## Q3 お話の中で最も印象に残ったことは？

- ・「プレーパークは、なくなるためにある。」  
 目標は「プレーパークを作ること」ではなく、「プレーパークが無くても遊ぶことのできる環境世の中になること」まち全体が遊び場になること。
- ・子どもがのびのびと遊べるまちは、大人にとっても暮らしやすいまち。
- ・自分が子どもの頃、町中で探検したり、神社で遊んでいたことを思い出しました。
- ・プレーパークに子どもを閉じこめれば良いと考える大人もいるという矛盾。
- ・ぶんちゃが先生嫌いになった話。（しかも5才で！）  
 自分自身、子どもにどのように映っているのか問い直しました。  
 簡単に言ってしまった言葉で傷つけていないか。子どもの心に寄り添っているのか。
- ・「子どものため」は信用できない。
- ・「子どもの遊びをイベント化しない。プログラム化しない。」
- ・（大人ができることは）遊びを用意することではなく、子ども自らが考えたり感じたりして「やりたい！」と思ったことを自由に表現できる「場」を守ること。
- ・つい「だめ！」と、子どもの遊びを中断しがち。干渉しがちだと反省しました。
- ・生活の中にこそ遊び場を！
- ・遊び場に来ては机や椅子を壊す子に対して、「壊されるなら作れば良い」。  
 なぜ壊すのか聞いたり、更生させようとしたりしないところ。
- ・児童館に喫煙所を設けた話。
- ・プレーパーク5つのポイント
  - ①子どもが歩きやチャリで行ける
  - ②いつでもやってる（誰かいる）
  - ③だれでも遊べる（申し込みや料金不要）
  - ④外である（できれば自然いっぱい）
  - ⑤こわせる・変えられるがいっぱいある。
- ・プレーリーダーの役割とは、子どもから教わったことを大人へと伝えること。

- 「心配を現状のまま残していても何も変わらない。」  
問題があっても「じゃあ、できないね」で終わらせてしまわないように。
- 体験することの大切さ。
- プレーパークは、子どもが多様な価値観を持つ大人と出会える場所。  
子どもも大人も、色々な垣根を越えて、様々な世代間でふれあえる場所。
- 室内の遊び場は、遊び場じゃない。
- (対話をすることで) 第一印象が変わっていくという話。
- 遊びの(タイミング)は、子どもが興味を持ったその時。
- 最後の自主保育をしているお母さん達のスライドが良かった。共感した。  
(スライドの内容は)まさに私。プレーパークに救われたことを思い出しました。
- 質疑応答にて、懸命に子育てに向き合っている親の声が聞けて良かった。
- (質疑応答にて) 大学内の月一で開催される遊び場について。  
→Q「参加者が固定化されてきているうえ、少ない。」  
→A「(自分も) 毎回、参加者が同じ小学生男子5人という時があった。  
そのことを相談すると「おまえはその5人から選ばれているんだぞ」と。」  
人数じゃない。そこが最前線なんだぞ!

#### Q4 もっと知りたいと思ったことは?

- プレーパークをこれから作ろうとしている方、もしくはすでに運営している方も 多く参加されていました。  
→プレーパークをはじめするには?  
→運営のポイント(スタッフ集め、安全面への取り組み、行政への取り組み  
資金、このままでいいのか?内容がイベント的になってしまう etc...)
- プレーパークでの子どもの様子。実際に行ってみたい!(小学校教諭)
- プレーワーカー養成(講座が開催できるのか?)
- 今の子どもの遊びは終わっている。ゲームの方がおもしろいと感じる子ども達。  
→この現状を打破するためには? 子どもを外へ連れ出すには?
- 私自身、遊び方がわかりません。
- 子どもとの関わり方、現場での伝え方。子どもから教わったこと具体例。
- ぶんちゃんの涙の理由は…? それと、ぶんちゃんの「言い忘れたこと」気になります。

#### Q5 自分でもやってみたいと思ったことは?

- プレーパークに行ってみたい。子どもと一緒にもっと外へ出かけたい。  
禁止しない。プレーパークに限らず、いろいろな体験をさせたい。
- プレーパークをつくりたい! 一坪プレーパーク、庭先からでも。
- 現実的には難しい側面も多いので、プレーパークのように…というのは無理だと思いますが、今日の学びをヒントに、子どもとの関わり方・考え方を見直して、保育園に通う子ども達にとって楽しい場所になるようにしたい。  
現場の大人達も育てていきたい。(保育関係者複数)